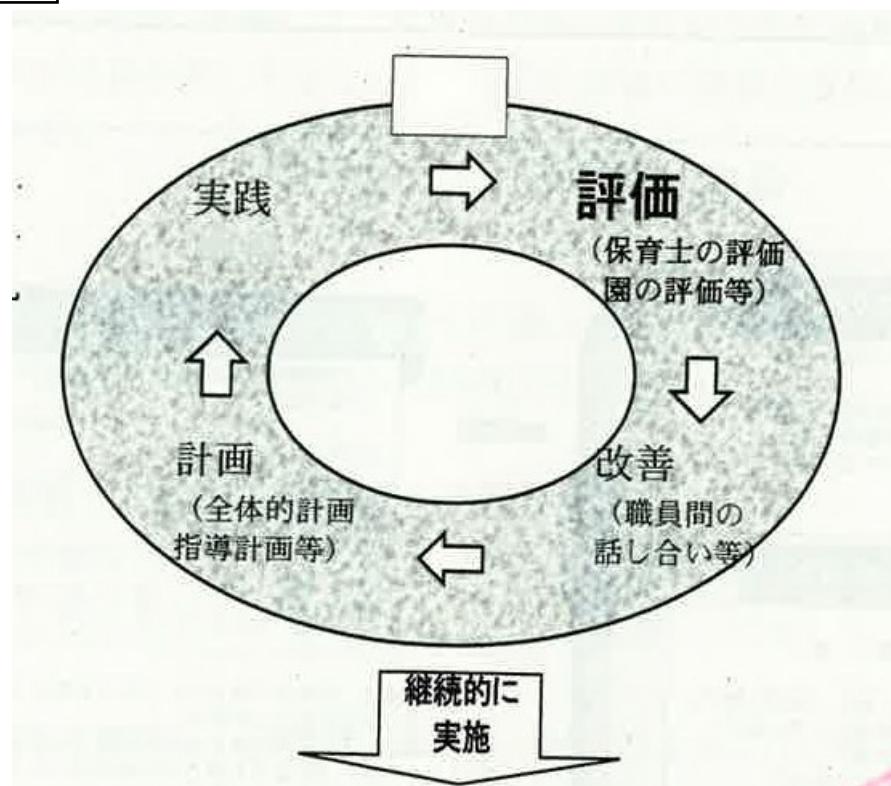


保育内容等の評価の目的と意義

- 保育内容等の評価は、子どもの豊かで健やかな育ちに資する保育の質の確保・向上を目的に行われます。
- 保育内容等の評価の意義
 - ・保育士等が子どもに対する理解を深め、保育の改善や充実が図られること
 - ・職員の資質・専門性の向上と職員間の相互理解や協働が図られること
 - ・保育所と関係者（保護者等）の間で子どもや保育についての理解が共有され、両者の連携が促進されること

保育内容の評価の位置づけ



保育の質の確保・向上

自己評価 ガイドライン一覧		
令和7年3月～9月		
3月	指導計画の定期的な見直しを組織的な評価の仕組みを定め実施している	毎月ミーティング内で評価、修正、修正、再計画を立案し実践を全員共有している
4月	自らの保育実践を振り返り保育の改善に生かしている	受け持ち児の在所を皆で振り返り評価し自己満足ではなく受け持ち児が満足できる保育実践となっているかを評価している
5月	評価した結果をもとに次の計画の作成に生かしている	多方面からの評価を行い次計画に生かしている
6月	心身の状態が把握され日常の状態の観察を行うなどの保健的な配慮をしている	園だけでなく家庭での様子も確認し小さな変化も職員内で報告しあい共有し保育実践に繋げている
7月	子供一人ひとりの育ちに応じて基本的な生活習慣を身に着けられるような配慮がされている	発達段階を把握し、やりたい気持ち等を尊重しながら見守り、声かけ、援助を実践している
8月	探索行動が十分に行えるような環境が整備され子供安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう保育者がかかわっている	探索活動が発展できるような常時、安全な環境を維持し個々に合った玩具の選別等を提供している
9月	食に関する豊かな経験のできるよう食事の提供を含む食育の計画を保育の計画に位置付け取り組みを行っている	